21世紀を築くとは

総合政策学部長
大橋（おおはし） 正和（まさかず）

20世紀とはどのような時代であったのでしょうか？総合政策学部が、設立された１９９３年当時がどのような時代であったのかと振り返ってみると、１９８９年にベルリンの壁が崩壊し１９９１年にソ連がロシアになるという20世紀を生きてきた人間にとっては驚くようなことが次々に起こっていました。１９９０年代を振り返ってみると、グローバリゼーションの進行、就業人口の第３次産業へのシフト、インターネット、携帯電話等の情報通信技術の飛躍的進歩、豊かさの概念の変容、個の論理の推進等20世紀の社会では考えられないような社会の変容が起こりました。

そのような状況の中で、産業革命以来の近代工業化社会の完成を目指した20世紀を総括し21世紀の新しい社会システムを築くのかということは卒業される諸君がこれから社会の中で直面する諸問題を解決しながら考え新しい社会を築いて行かなくてはならない大きな課題であると思います。

「賢者は歴史に学び、愚者は体験に従う」というドイツの宰相ビスマルクの有名な言葉があります。

体験は、「百聞は一見に如かず」ということわざのように重要な行為であります。大学から世の中に旅立つ卒業生諸君は、社会の中でこれから様々な体験をします。この言葉の意味は、賢者は、自分の体験や考えばかりで物事を理解するのでなくその原因や背景や世の中の変容などを考えて自分の経験や体験を普遍化することにより共通の原理や法則を見つけ出す事だと言うことです。それが、歴史に学ぶという意味です。

21世紀の新しい社会のシステムを築いていく諸君には、この精神を忘れずに社会で活躍されんことを祈念します。